

第二十八回

中村邦生の会

令和五年十一月四日(土) 三時始(開場二時三十分)

澁谷セルリアンタワー1能楽堂

能遊行柳

おはなし 関 孝彦

狂言

腰

祈

野村万蔵

番組組

おはなし

関 幸彦 (前 日本大学教授)

狂言

腰祈

野村万蔵

野村拳之介
河野佑紀

休憩二十分

能

中村邦生

遊行柳

宝生欣哉

亀井洋佑 小寺真佐人
成田達志 松田弘之

大日方 寛
宝生尚哉

野村万蔵

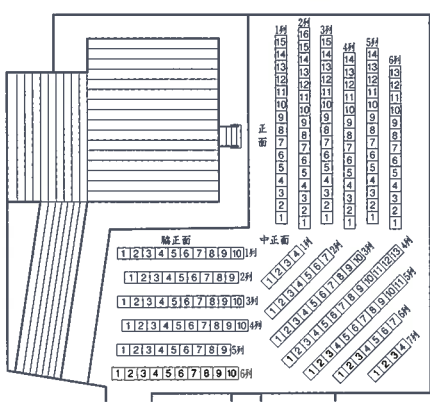
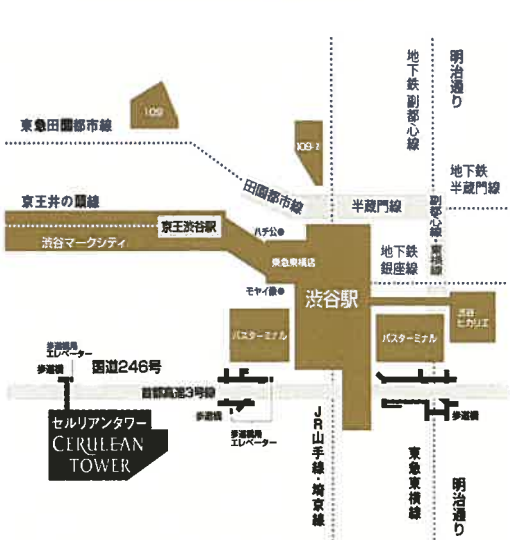
友枝昭世
狩野了一

佐藤寛泰 友枝雄人
金子敬一郎 大村雄定
内田成信 香川靖嗣
佐々木多門 長島茂

終了予定時刻 六時頃

「遊行柳」(ゆぎようやなぎ)
昔を偲ぶ老木の「柳の精」の語りを、主題にしたもの。幽玄・閑雅な気分が演出される。「西行桜」との対比がこの作品にはうかがわれるとされる。「遊行柳」の場合、西行には、遊行上人が対比される。そして桜に対し柳が、春に対し秋が、京都には鄙たる白川関という具合だ。
懸想の地たる欧州白河入りをなした「遊行上人」(ワキ)一行の前に、一人の老人(前シテ)が現れる。老人は先代の「遊行上人」が通った古道へと彼らを誘い、「朽木の柳」という名木のことを教える。ここには西行法師がかつて「道のべに清水流るる柳かげ しぼしとてこそ 立ちどまりつれ」と詠じた場だった。その故事を伝え、老人は姿を消してしまふ。その夜、上人の夢の中に「柳の精」(後シテ)が現れ、回向を弔う成仏の喜びを語り、報謝の舞をなすとのストーリーだ。「柳の精」に西行を同化させる趣向には、悉皆成仏の仏性志向についても看取され、興味をそそる。
本作品が含意する内容は様々だ。遊行期という晩節に入ったシテ(中村邦生)が、昨年の難曲「芭蕉」に続いての、静寂なる気品溢れる奥深さを堪能したい。

「腰祈」(こしいのり)
新米の山伏の修験者を揶揄する話である。祈りの呪法で文字通り曲がった腰に療治を加え、騒動となってしまう、とのストーリーだ。「山伏狂言」は祈禱の効果が現れないことに、重きを置かれることが多い。この「腰祈」の内容は真逆で、効き過ぎたことがポイント。
大嶺・葛城山で修行を終えた若き山伏は、故郷の羽黒山へと帰る途上、都の祖父のもとに立ち寄る。腰の曲がった祖父の姿を見るや、山伏は己の修行の成果を試すべく、懸命に祈ることになる。
けれども、法力が強すぎ祖父の側は仰向けになつたり、かがんだりと落ち着かない。後ろから杖の突っ張り棒で、やっと上手くゆく。伸びたままの腰に怒った祖父が、太朗冠者扮する山伏を追いかけるといふ顛末もおもしろい。(関 幸彦)



チケット料金 全席指定

一般券	正面	¥8,000
	脇正面	¥7,000
	中正面	¥6,000
学生席 (中正面)		¥2,000

8月1日(火)チケット販売開始

☆チケット販売・お問合せ

・中村邦生の会
TEL 03-5310-5690

・喜多六平太記念能楽堂
TEL 03-3491-8813
<http://kita-noh.com/ticket/>

セルリアンタワー能楽堂
東京都渋谷区桜丘町26-1
セルリアンタワー地下2階
03-3477-6412

*なお、会場での撮影・録画・録音は、堅くお断りします。又、携帯電話等、音の出る物もご遠慮お願いいたします。